

平成26年度 第2回岐阜県手話サークル協議会理事会 議事録

平成27年3月22日県聴覚障害者情報センターボランティア室にて第2回県サ協理事会が開催されました。有効定数45名、出席理事26名、委任状14名、合わせて40名、有効定数の88%に達し、会議成立の確認をした。

1. 会長挨拶

2. 協議事項

第1号議案 平成27年度事業計画（案）承認

第2号議案 平成27年度予算（案）承認

第3号議案 優良サークル表彰（案）開催地区である各務原のサークルはにわ会の推薦が承認

3. その他連絡・報告

(1) 平成26年度・27年度本部役員については引き続き任期まで継続。

3団体が合同で協議する健康対策、介護対策、防災対策の専門委員を県サ協として選任したい。防災対策はすでに昨年度から会議を重ねており本部役員矢島さんが参加している。介護対策は介護について専門的な知識を持っているわかばの尾関さんに、また健康対策は本部役員の細道さんをお願いしたい。それぞれこの3人を軸に進めていくこととする。

(2) 26年度ブロック研修会について報告。

岐阜ブロック

県情報センターにて5月に開催され、テーマは「ろう者と話そう」で、たびたび行う内容だが概ね好評だった。

西濃ブロック

手話言語法の勉強会を講師を招いて行った。参加者は60名程度だった。

中農ブロック

ろう者の講演で参加者は60名程度だった。

東濃ブロック

ろう者との交流会を開催した。50~60名ほどの参加でグループに分かれての交流。昨年に引き続きの内容。

飛騨ブロック 飛騨地区の出席理事がなかったため、会計佐藤さんより大まかな内容のみの報告。11月に開催された。飛騨地区は初めての開催。

会長より提案事項として、今後のブロック研修会への本部からの補助金は過去通訳者の飲料代は含まなかったが、今後は必要なものとして含むこととする。

(3) 平成26年度会計中間決算報告

(4) ケイワン検診について。

3月7日に無料検診が行われた。14名が受診され、半数が要約筆記者だった。理由は有料で使える制度がまだないことがあげられる。相談も通訳者のためだけではなく要約筆記者のための配置もした。

今年度の有料検診の状況は、県情報センターのボランティア室で行い、10～11月の2日間で90名が受診した。費用は市町の公費。

(5) リラクゼーション研修について

今年度は4回開催され、可児2回、関1回、多治見1回で、井藤さん、水野さん、安田会長が担当した。

(6) 合同研修会について

2年に1回開催されているもの。27年度は11月8日の予定。健康対策をテーマに全日ろう連の指示に合わせた行うことになっている。多くの方に参加いただきたい。

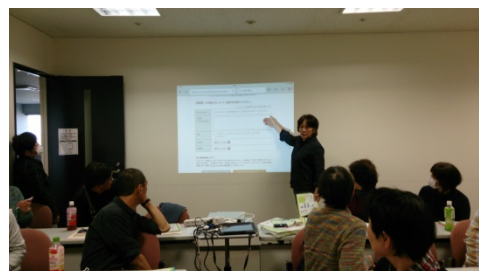
(7) 三団体協議については、(1)の中で述べたとおり。

(8) 県聴協60年記念誌について

在庫が十分あるため購入してほしい。

(9) その他

- ・NHK放送技術研究所より、『NHK手話評価ホームページ』のご案内が届いた。各サークルで周知され、ぜひ利用されるよう酒井役員より利用方法の説明があった。



- ・各サークル理事よりサークルの現状を中心に報告していただいた。概ねどこのサークルもサークル員の減少、役員が固定されている（誰もやりたがらない）、サークルに協力的なろう者の高齢化により健聴者のみの参加などとなっている。講座終了後一時的に会員は増加するものの結局継続する人は少ない。ろう者の世代も変わりつつある中、手話サークルのあり方も変わらなければならない時期になりつつあるのかもしれないとの意見が役員からあった。